



NOVA Drive NDR-1

ユーザーマニュアル

イントロダクション

目次	3
イントロダクション	4
主な機能	4

セットアップ例

NOVA DRIVE & アンプ	6
NOVA DRIVE & G-SYSTEM	7
NOVA DRIVE & G-SWITCH	8
MIDI システムへの組み込み	9

操作法

本体図	10
配線	11
スイッチとノブ	11
NOVA DRIVE & G-SWITCH	16

その他

MIDI チャンネルの設定	18
バイパス・モード	18
プリセットとバンク	19
NOVA DRIVE & G-SYSTEM	21
MIDI システムへの組み込み	22
MIDI コントローラー対応表	23

付録

仕様	24
最後に	25

イントロダクション

イントロダクション

NOVA Drive は、NOVA System フロア・マルチエフェクトで実現した、デジタル・コントロールが可能なアナログ・ドライブ回路を特徴とする、トゥルー・バイパス採用のデュアルエンジン・オーバードライブ/ディストーション・ペダルです。アナログだからこそ出せる粒立ちの良いシルキーな高品位歪みを提供するとともに、従来の歪みペダルとは一線を画す、画期的な技術が集約されています。

オーバードライブ、もしくはディストーション単体として使用することはもちろん、NOVA Drive 内部の接続順も自由に設定できます。オーバードライブ→ディストーション、ディストーション→オーバードライブ、そしてオーバードライブとディストーションを並列に配置するパラレル接続と、全ての組み合わせが選べます。

オーバードライブ・エンジンはクリーントーンとのミックスが可能で、コシのあるブースター代わりとしても使用できます。また、ディストーション・エンジンはハイ/ローの2EQを装備し、柔軟なトーン・コントロールが可能です。セッティングはプリセットに記憶させて、瞬時に呼び出すことができます。NOVA Drive 1台で、クリーン・ブースターから強烈なディストーション歪みまで、幅広いサウンド・メイキングが可能となります。

主な機能

オール・アナログの回路をデジタル・コントロール

アナログ回路の歪みがデジタルより優れているということに、ほとんどのギタリストは異存ないでしょう。しかしながら、デジタルの利便性には捨てがたいものがあります。NOVA Drive は、二者択一ではなく、両方の利点を兼ね備えています。

トゥルー・バイパス対応

NOVA Drive では、意図的にサウンドを変えたい時以外にはギターのとーンをいじりません。ギタリストのセットアップと好みに合わせて、トゥルー・バイパスとバッファー・バイパスを選べます。

豊富なルーティング・オプション

NOVA Drive は、オーバードライブとディストーション・セクションを好きな接続順で内部配線できます。ケーブルの抜き差しをすることなく、コンパクト・エフェクトの醍醐味の一つである、エフェクトの接続順によるサウンドの変化を存分に堪能できます。

あらゆる操作スタイルに対応

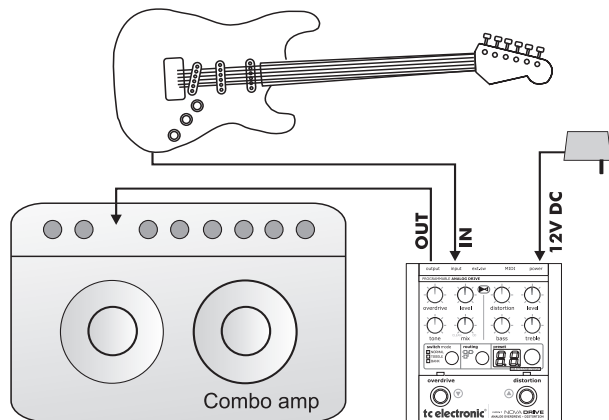
NOVA Drive は、本体をどの様に操作したいかまでもギタリストの好みに合わせて変更できます。コンパクト・ペダル流の使い方から、NOVA Drive 単体でプリセットを切り替える操作方法、そして MIDI フットコントローラーからの外部 MIDI コントロールにまで対応します。

G-System とのトータル・インテグレーション

G-System との組み合わせでは、G-System から直接 NOVA Drive のパラメーターをリアルタイムで操作できます。

tc electronic®

セットアップ例 - NOVA DRIVE & アンプ

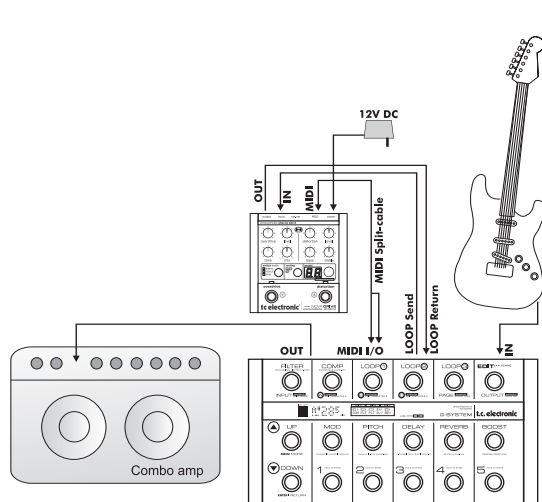


NOVA Drive とコンボ・アンプの基本的な構成

- ギターを NOVA Drive のインプットに接続します。
- NOVA Drive のアウトプットをギターアンプのインプットに接続します。
- ルーティングとスイッチ・モードを設定します。
- レベルを調節します。

その他のセットアップ方法や、それぞれの利点については後述の例をご参照ください。

セットアップ例 - NOVA DRIVE & G-SYSTEM



NOVA Drive を TC エレクトロニック G-System と組み合わせたセットアップ例です。このマッチングは、新しいサウンドの可能性を提示する、優れた統合セットアップとして機能します。

- 図の通りに配線を行ないます。

このセットアップは、TC エレクトロニックからオプションで販売されている MIDI スプリット・ケーブルが必要となります。

- G-System のメニューに NOVA Drive が表示されます。

これで、NOVA Drive のパラメーターを G-System から直接調節することが可能となります。

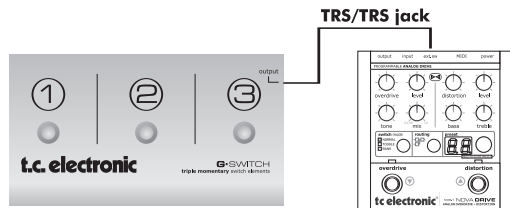
- G-System の EDIT ボタンを押して、PAGE エンコーダーで NOVA Drive のパラメーターを選択します。
- G-System に NOVA Drive が接続されている状態でプリセットを保存すると、NOVA Drive の設定も自動的に保存されます。



NOVA Drive のプリセットとセッティングは常に NOVA Drive 上に保存されます。

G-System の設定方法についての詳細は、G-System のマニュアルをご参照ください。

セットアップ例 - NOVA DRIVE & G-SWITCH



G-Switch による NOVA Drive の拡張

TC エレクトロニック G-Switch フットスイッチ (オプション) を NOVA Drive の EXT. SW. (External Switch = 外部スイッチ) 端子に接続することにより、NOVA Drive に3つのスイッチを追加することができます。

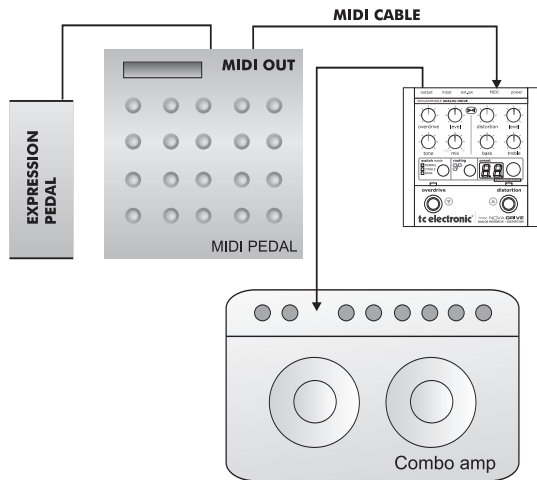
- G-Switch と NOVA Drive の EXT. SW. 端子に TRS / TRS (ステレオ・ジャック) ケーブルを接続します。

配線を行なうと、NOVA Drive は G-Switch を検知し、様々な機能を G-Switch からコントロールできるようになります。詳細は「NOVA Drive & G-Switch」セクション (16 ページ) をご参照ください。

例

Bank Mode (バンク・モード) がアクティブな状態で G-Switch を接続すると、NOVA Drive の上下スイッチでバンク A ~ F の切り替えが行なえるようになります。バンクを選択したら、G-Switch から3つのプリセットのいずれかを選択できます。

セットアップ例 - MIDI システムへの組み込み



左の図はシンプルな MIDI セットアップで、MIDI ペダルをメインのコントローラーとして使用している際の、NOVA Drive の組み込み方を示します。エクスプレッション・ペダルを MIDI ペダルに接続した上で NOVA Drive のパラメーターを調節できます。

本体図



配線

1 POWER - パワー

NOVA Drive は、12V DC / 300 mA を必要とします。製品に付属の
パワーサプライを使用するか、同様の仕様を持ったパワーサプライを
ご使用ください。

2 INPUT - インプット

入力用の 1/4"モノラル・ジャックです。

3 OUTPUT - アウトプット

出力用の 1/4"モノラル・ジャックです。

4 MIDI

単一の 5 ピン DIN ジャックで MIDI In/Out 両方として機能する、TC
G-System 等を接続するための MIDI 端子です。

5 EXTERNAL SWITCH - エクスターナル (外部) スイッチ

TC エレクトロニック G-Switch を接続するための端子です。詳細は、
後述の「NOVA Drive & G-Switch」セクションをご参照ください。

スイッチとノブ

6 OVERDRIVE - オーバードライブ・ノブ

オーバードライブ・セクションの、オーバードライブの量を調節し
ます。

7 LEVEL - レベル・ノブ

オーバードライブ・セクションのレベルを調節します。

8 TONE - トーン・ノブ

オーバードライブ・セクションのトーンを調節します。左に回すと
ダークに、右に回すとブライتناサウンドになります。

9 MIX - ミックス・ノブ

クリーンとプロセスされた (ドライブのかかった) 信号のミックス・
バランスを調節します。適切に設定すると、クリーン・アンプとドラ
イブ・アンプを同時に鳴らしたような音となります。この手法は、
サウンドにパンチを与えてより透明感のあるサウンドに仕立て上げる
のに、スタジオ・レコーディングで多用されるテクニックです。シン
グルコイル・ピックアップやブルーズ/ロックなどに適しています。

操作法

10 DISTORTION - ディストーション・ノブ

ディストーション・セクションの、ディストーションの量を調節します。

11 LEVEL - レベル・ノブ

ディストーション・セクションのレベルを調節します。

12 TREBLE - トレブル・ノブ

ディストーション・セクションのハイを調節します。時計回りに回すとトレブルが増え、反時計回りに回すと減ります。

13 BASS - ベース・ノブ

ディストーション・セクションのローを調節します。時計回りに回すとベースが増え、反時計回りに回すと減ります。

14 >< LED 矢印

NOVA Drive は 100% アナログですが、サウンド回路のコントロールはデジタルで行なわれます。新しいプリセットに切り替えると、通常はノブの位置とプリセットの設定が一致しません。ノブを回しはじめると、「>」「<」いずれかの LED が点滅し、ノブのポジションを実際のセッティングと一致させるのにどの方向に回すべきかを表示します。ノブのポジションが内部の設定に近づくにつれて LED の点滅が速く

なります。ノブのポジションと実際のセッティングが一致すると、両方の LED が短時間点灯します。

15/16 SWITCH MODE - スイッチ・モード・ボタン & LED

NOVA Drive の 2 つの大型フットスイッチは、3 つのモードを持っています。SWITCH MODE ボタンを押すとモードが切り替わります。ボタン隣の LED がモードを示します (Normal / Toggle / Bank)。

Normal - ノーマル・モード

このモードでは、Nova Drive の 2 つのセクションは別物のペダルとして扱われ、選択したルーティングに従って内部配線されます。ルーティングについての詳細は、後述の「ROUTING - ルーティング・モード・ボタン & LED」セクション (14 ページ) をご参照ください。

OVERDRIVE と DISTORTION スイッチを押すと、それぞれのセクションをオン/オフできます。両方を同時にオンにすることも可能なので、リズム・パートを演奏している時にはミディアム・ディストーションを施し、ソロのセクションでは元の歪みにオーバードライブを重ねる、といった使い回しが可能です。

Toggle - トグル・モード

NOVA Drive の両方のドライブ・セクションを同時に使用することは

ない場合に選択します。OVERDRIVE と DISTORTION スイッチで、使用したい歪みの種類を選びます。

例

- まずは NOVA Drive をバイパスした状態からはじめます。
- DISTORTION スイッチを踏み、ディストーションをオンにします。
- 次に OVERDRIVE スイッチを踏んでみます。ディストーションはオフになり、オーバードライブがオンになります。
- NOVA Drive をバイパスするには、現在オンのスイッチを踏みます（この場合は OVERDRIVE スイッチ）。

Bank - バンク・モード (G-Switch が接続されていない場合)

バンク・モードでは、NOVA Drive の PRESET エンコーダーで9つのバンク (A ~ I) のいずれかを選択できます。各バンクは2つのプリセットで構成され、OVERDRIVE と DISTORTION スイッチでバンク内のプリセットを切り替えられます。

例

- PRESET エンコーダーでバンク A を選択します。
- OVERDRIVE スイッチを踏みます。ディスプレイに「A1」と表示されます。これは、「バンク A、プリセット 1」を意味します。
- 次に、DISTORTION スイッチを踏みます。ディスプレイには

「バンク A、プリセット 2」を意味する「A2」と表示されます。

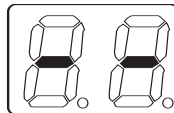
- NOVA Drive をバイパスするには、現在選択されているプリセットのスイッチを踏みます（この場合は DISTORTION スイッチ）。ディスプレイに「A」と表示されます。これは、バンク A 内で、プリセットが選択されていないことを意味します。

マニュアル・モード

マニュアル・モードでは、一般的なアナログのコンパクトペダルのように、常にノブの状態のままのサウンドが得られます。このモードでは、NOVA Drive は2台のコンパクト・ペダルのように機能します。

マニュアル・モードの選択方法

- ノーマルまたはトグル・モードを選択します。
- ディスプレイに「—」と表示されるまで PRESET エンコーダーを反時計回りに回します。



操作法



マニュアル・モードはノブの設定を常に反映させるため、マニュアル・モードからプリセットの呼び出しは行なえません。しかしながら、マニュアル・モードで作成したセッティングをプリセットとして保存することは可能です。PRESET エンコーダーを長押ししてストア（保存）・モードに入り、プリセットの保存先の番号を選択します。再度エンコーダーを押し、操作を確定します。詳細は次ページの「20 PRESET - プリセット・エンコーダー/ストア（保存）ボタン」をご参照ください。

17/18 ROUTING - ルーティング・モード・ボタン & LED

「ルーティング」とは接続の方法を意味します。NOVA Drive では3つの内部ルーティングが用意されています。ルーティングを変更するには、ROUTING スイッチを押します。

シリアル・ルーティング (A)

入力された信号はまずオーバードライブ・セクションを経由して、次にディストーション・セクションを通ります。多くのギタリストがブースト・ペダルを使うように、オーバードライブでディストーションをプッシュする、といった使い方に適しています。



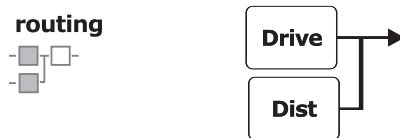
シリアル・ルーティング (B)

入力された信号はまずディストーション・セクションを経由して、次にオーバードライブ・セクションを通ります。



パラレル・ルーティング

2つのセクションをパラレル（並列）に処理し、お互いに影響を与えません。





ルーティングの設定はプリセットに保存されます。

19 PRESET - プリセット番号ディスプレイ

NOVA Drive は 18 のプリセット領域を持ちます。2x7 セグメントのディスプレイに現在のプリセットが表示されます。

20 PRESET - プリセット・エンコーダー/ストア (保存) ボタン

プリセットの選択と保存に使用します。

プリセット番号の選択とプリセットの呼び出し：ノブを回してプリセットを選択します。

セッティングの保存：エンコーダーを 2 秒長押しします。同じプリセット領域に新しいセッティングを上書きするには、そのまま押した状態のエンコーダーを離します。セッティングを別のプリセット領域に保存するには、エンコーダーを押したままの状態でもエンコーダーを回して保存先を選び、エンコーダーを離します。

21 OVERDRIVE - オーバードライブ・スイッチ

ノーマルまたはトグル・モードでは、オーバードライブ・セクションをオン/オフします。バンク・モードでは、前のプリセット・バンクに移動します。

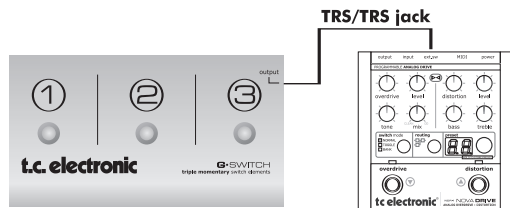
22 DISTORTION - ディストーション・スイッチ

ノーマルまたはトグル・モードでは、ディストーション・セクションをオン/オフします。バンク・モードでは、次のプリセット・バンクに移動します。

23 ステータス LED

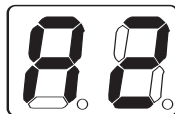
NOVA Drive の 2 つのセクション（オーバードライブとディストーション）のオン/オフの状態を示します。

NOVA DRIVE & G-SWITCH



TC エレクトロニック G-Switch フットスイッチ (オプション) を NOVA Drive の EXT. SW. (External Switch = 外部スイッチ) 端子に接続することにより、NOVA Drive に3つのスイッチを追加できます。配線を行なうと、NOVA Drive は G-Switch を検知し、次の通り、機能を G-Switch からコントロールできるようになります。

G-Switch を接続すると、一度に3つのプリセットから選べるようになります。NOVA Drive を単体で使用する場合には2プリセット×9バンクで18プリセットにアクセスするのにに対し、G-Switch を接続すると3プリセット×6バンクで18プリセットにアクセスします。この場合、バンクの名称はA/B/C/D/E/Fとなります。バンクAのプリセット2番は「A2」、といった具合に表示されます。



ノーマル・モード

- NOVA Drive 本体の2つのスイッチは、オーバードライブとディストーション・セクションそれぞれのオン/オフ・スイッチとして機能します。
- G-Switch の3つのスイッチで、選択されているバンクの3つのプリセットを切り替えます。
- PRESET エンコーダーでバンクを切り替えます (A1 / A2 / A3、B1 / B2 / B3、等)。

トグル・モード

- NOVA Drive 本体の2つのスイッチは、オーバードライブとディストーション・セクションそれぞれのオン/オフ・トグル・スイッチとして機能します。
- G-Switch の3つのスイッチで、選択されているバンクの3つのプリセットを切り替えます。

NOVA DRIVE & G-SWITCH

- PRESET エンコーダーでバンクを切り替えます (A1 / A2 / A3、B1 / B2 / B3、C1 / C2 / C3、等)。

バンク・モード

- NOVA Drive 本体の 2 つのスイッチは、プリセット・バンクを切り替えるために使用します。
- G-Switch の 3 つのスイッチで、選択されているバンクの 3 つのプリセットを切り替えます。

アクティブとバイパス

バンク内のプリセットいずれかをオンにするには、3 つのスイッチのいずれかを押します。NOVA Drive のディスプレイにバンクとプリセットが表示されます。

G-Switch が接続されている状態で NOVA Drive をバイパスするには、使用中のプリセットのスイッチを再度踏みます。バンク毎に 3 つのドライブ・ペダルを並べていて、その内の一つを選べる状態とお考えいただけます。

例 - ノーマル・モード

- NOVA Drive の SWITCH MODE ボタンで Normal (ノーマル) モードを選択します。
- PRESET エンコーダーでプリセット・バンク/レンジを選択します。
- G-Switch のスイッチ 2 を押します。ディスプレイには「2」と表示され、プリセットで使用している歪みの種類に応じて OVERDRIVE と DISTORTION LED のいずれかまたは両方が点灯します。



- 再度 G-Switch のスイッチ 2 を押します。セクションの LED が消え、NOVA Drive はバイパスされます。



エフェクト・セクションをバイパスしていても、その設定はプリセットに保存されます。

その他

MIDI チャンネルの設定

NOVA Drive の MIDI チャンネルを設定する手順は次の通りです。

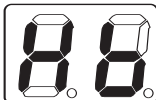
- MODE スイッチを 3 秒間長押しします。

バイパス・モード

既述の通り、NOVA Drive はパラメーターをデジタル・コントロールするトゥルー・アナログのエフェクトです。この基本設計により、ハード・バイパス（トゥルー・バイパス）とバッファー・バイパス・モードの、2 種類のバイパスを選択できます。モードを選択するには、ROUTING モード・ボタンを三秒間長押しします。ディスプレイに現在の設定（「Hb」＝ハード・バイパス、「bb」＝バッファー・バイパス）が表示されます。PRESET エンコーダーで設定を変更します。

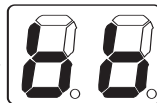
Hb - ハード・バイパス（トゥルー・バイパス）

トゥルー・バイパス・モードでは、バイパス時に入力信号が直接出力されます。この設定が NOVA Drive の工場出荷時のデフォルトです。



bb - バッファー・バイパス

バッファー・バイパス・モードでは、信号ロスを招くことなくペダル以降でより長いケーブルを使用できます。



どちらのバイパス・モードが優れているのでしょうか？

これは多くのこだわりのプレイヤーが強い信念を持っている課題で、一概にどちらが優れているとは言いきれません。トゥルー・バイパスはペダルを外すのと同じことですので、信号の質を忠実に保つという観点からすれば、理論上こちらが自然な選択肢となります。しかしながら、ペダル・ボード内でバッファーの役目をする機器が一つもない状態でケーブル長が長くなると、信号が著しく損なわれてしまいます。この現象は、シングルコイルのピックアップで顕著に現れます。両方のモードをお試しいただいた上で、聴感上優れていると思われる方をご選択ください。



NOVA Drive に直接接続する機器によって、トゥルー・バイパスの設定にすると NOVA Drive をオン／オフした際にクリック音が聴こえることがあります。

プリセットとバンク

NOVA Drive では 18 のプリセット領域が用意されています。スイッチ・モードの設定、そして NOVA Drive と一緒に G-Switch または G-System を使用するかどうかによって、18 のプリセットは次の表のようにまとめられます。

G-SWITCH なし

	スイッチ 1	スイッチ 2	エンコーダー
ノーマル・モード	オーバードライブ オン/オフ	ディストーション オン/オフ	プリセット選択 1 ~ 18
トグル・モード	オーバードライブに変更、 またはバイパス	ディストーションに変更、 またはバイパス	プリセット選択 1 ~ 18
バンク・モード	プリセット 1 バンク A 3 バンク B - - 17 バンク I	プリセット 2 バンク A 4 バンク B - - 18 バンク I	バンク選択 A ~ I の 9 バンク構成、 バンク毎に 2 プリセット

プリセットとバンク

G-SWITCHあり

	スイッチ1	スイッチ2	エンコーダー	G-SWITCH
ノーマル・モード	オーバードライブ オン/オフ	ディストーション オン/オフ	プリセット・レンジ 1～3、4～6、7～9等	プリセット選択 1～3、4～6、7～9等
トグル・モード	オーバードライブに 切り替え	ディストーションに 切り替え	プリセット・レンジ 1～3、4～6、7～9等	プリセット選択 1～3、4～6、7～9等
バンク・モード	バンク・ダウン A～Fの6バンク構成、 バンク毎に3プリセット	バンク・アップ A～Fの6バンク構成、 バンク毎に3プリセット	バンク選択 A～Fの6バンク構成、 バンク毎に3プリセット	プリセット選択 1～3、4～6、7～9等

**NOVA Drive を TC エレクトロニック G-System と組み合わせること
で、親和性の高い統合セットアップを構築できます。**

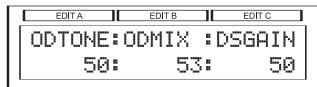
まずは、7 ページの図を参照してセットアップを配線します。オプションの MIDI スプリット・ケーブルが必要となります。

MIDI スプリット・ケーブルを接続すると、G-System は NOVA Drive を検知し、G-System の内蔵エフェクトとして NOVA Drive のパラメーターを操作できます。

NOVA Drive のパラメーターを G-System からアクセスする

- G-System の EDIT ボタンを押し、PAGE エンコーダーで NOVA Drive のパラメーター・ページを選択します。

例



MIDI スプリット・ケーブルで 2 台を接続した状態では、NOVA Drive のセッティングを NOVA Drive 本体または G-System の PAGE と A / B / C エンコーダーで変更できます。



G-System から NOVA Drive をコントロールしている場合でも、プリセットやセッティングの保存は NOVA Drive 自体に行なわれます。

G-System にエクスプレッション・ペダルを接続すると、NOVA Drive のエフェクト・パラメーターをリアルタイムで操作できるようになります。G-System では、外部コントローラーを NOVA Drive の次のパラメーターに割り当てられます。

- オーバードライブ：アmount（量）、レベル
- ディストーション：アmount（量）、レベル



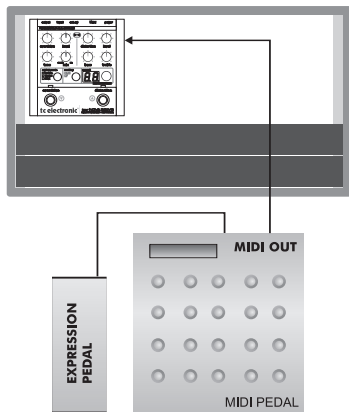
G-System を NOVA Drive と組み合わせる際には、G-System のプリセットで NOVA Drive のオン／オフの状態を指定する使い方が一般的です。また、G-System のプリセット変更時に NOVA Drive の特定のプリセットを呼び出すといった設定も可能で、ライブでの使用時にセッティング変更の時間を短縮できます。

NOVA Drive を G-System の脇に並べている場合、G-System に接続していても NOVA Drive 本体の 2 つのフットスイッチでオーバードライブとディストーション・セクションのオン／オフを行えます。

MIDI システムへの組み込み

NOVA Drive は、MIDI システムへの組み込みも容易です。MIDI プログラムチェンジによるプリセットの変更や、MIDI CC によるパラメーターのリアルタイム外部コントロールができます。

MIDI の基礎知識については、ウィキペディア等インターネット上の情報をご参照ください。



MIDI フットコントローラーが MIDI CC と MIDI プログラムチェンジ情報の送信に対応していれば、NOVA Drive を外部コントロールできます。次のような操作が可能です。

- NOVA Drive はラックに収納して、2つの MIDI CC スイッチでオーバードライブとディストーションをオン/オフできます (図参照)。
- MIDI フットコントローラーからプログラムチェンジ情報を送信させることで、NOVA Drive のプリセットを切り替えられます。
- MIDI フットコントローラーに接続したエクスペッション・ペダルでオーバードライブのアマウント (量) 等をリアルタイムに調節できます。

MIDI チャンネルの設定

NOVA Drive の MIDI 送受信チャンネルは、工場出荷時のデフォルトで 2 に設定されています。

MIDI チャンネルの設定方法

- SWITCH MODE ボタンを 3 秒間長押しします。
- SWITCH MODE ボタンを押したままの状態、PRESET エンコーダーで MIDI チャンネルを指定します。
- SWITCH MODE ボタンを離します。

MIDI コントローラー対応表

次のパラメーターを外部 MIDI コントロール可能です。

パラメーター	CC#	最小	最大	備考
OD On/Off (オン/オフ)	21	0	127	0 ~ 63 = オフ、64 ~ 127 = オン*
Dist On/Off (オン/オフ)	22	0	127	0 ~ 63 = オフ、64 ~ 127 = オン*
OD Drive (ドライブ)	23	0	127	
OD Level (レベル)	24	0	127	
OD Tone (トーン)	25	0	127	
OD Mix (ミックス)	26	0	127	
Dist Drive (ドライブ)	27	0	127	
Dist Level (レベル)	28	0	127	
Dist Bass (ベース)	29	0	127	
Dist Treble (トレブル)	30	0	127	
Routing (ルーティング)	31	0	127	[0;42] = O → D、[43;84] = D → O、[85;127] = パラレル**

- * コントローラ 21 番で 0 ~ 63 の値を送ると「オーバードライブ・オフ」、64 ~ 127 の値を送ると「オーバードライブ・オン」となります。
コントローラ 22 番で 0 ~ 63 の値を送ると「ディストーション・オフ」、64 ~ 127 の値を送ると「ディストーション・オン」となります。
- ** コントローラ 31 番で 0 ~ 42 の値を送ると「オーバードライブ→ディストーション」のルーティングとなります。
コントローラ 31 番で 43 ~ 84 の値を送ると「ディストーション→オーバードライブ」のルーティングとなります。
コントローラ 31 番で 85 ~ 127 の値を送るとディストーションとオーバードライブがパラレル (並列) のルーティングとなります。

仕様

アナログ入力

コネクター	1/4" フォーン・ジャック
インピーダンス	1 M Ω
最大入力レベル	6.25 dBu

アナログ出力

コネクター	1/4" フォーン・ジャック
インピーダンス	0 Ω
最大出力レベル	8 dBu

MIDI

コネクター	5ピン DIN (イン/アウト一体型)
-------	---------------------

電源

コネクター	DC ジャック、 $\phi 6.4$ mm
極性	センター・マイナス
電圧	12V DC
消費電力	Ca. 380mA

EMC

準拠規格	EN 55103-1 and EN 55103-2 FCC Part 15 Class B, CISPR 22 Class B
------	--

安全

準拠規格	IEC 60065, EN 60065, UL60065 and CSA E60065
------	---

環境

作動環境温度	0° C ~ 50° C (32° F ~ 122° F)
保管環境温度	-30° C ~ 70° C (-22° F ~ 167° F)
湿度	最大 90 % (結露なきこと)

一般

寸法	127.5 x 41.4 x 131 mm
寸法 (ノブ部の突起を含む)	127.5 x 56.5 x 131 mm
重量	0.8 kg (1.76 lb)
仕上げ	アクリル及びアノダイズ・アルミニウム・フロント。プレート及びコーテッド・シャーシ。コーテッド・スチール・スチール・エンドキャップ

電源	100 ~ 240 VAC、50 / 60 Hz (自動選択) AC ウォール・アダプター
消費電力	< 5 W
製品保証	1 年

製品の改良のため、仕様は予告なく変更となる場合がございます。

本マニュアルをご一読いただいた上でご質問や疑問をお持ちでしたら、TC のオンライン・サポート・サービス、TC Support Interactive (TC サポート・インタラクティブ) をご利用ください (<http://tcjsupport.custhelp.com>)。多くのユーザー様からいただいたご質問とその答えを掲載したり、マニュアルのアップデートを行ないます。マニュアルの改訂版はウェブサイトから PDF 形式で配布されます。



また、TC エレクトロニックの Youtube チャンネルもご参照ください (www.youtube.com/tcelectronic)。製品の教則ビデオやプロモーション・ビデオなどを掲載いたします。

tc electronic®

tc electronic®